.. Gordon o4年生まれ。ハーバー ド大博士 (歴史・東ア ジア言語)。専門は日 本近現代史、労働中 Andrew Gordon

0

世界でも多くの人が教訓を学ぼうと注目

災害意識し対策練った歴史が人命を救う

0

。3・11の悲劇を理解し将来に伝える必要

われた地域に住んでいる。

震災後すぐに下されたな

壊的な津波だ。 東北の三陸海岸を襲った破 チュード9・0の大地震と のうちにわかったのは、日 ショックを受けた。その日 本が2重の災害に見舞われ たことだけだった。マグニ

きた未曽有の事態に大きな

10年前、筆者は日本で起

東日本大震災10年

始するとともに、多くの人

援のための寄付金集めを開 ャワー日本研究所では、支 なくされたことも知った。

米ハーバード大学ライシ

住民約16万人が避難を余儀

の企画に着手した。「日本

に震災を知ってもらうため

イブ(JDA)」を作ること 災害DIGITALアーカ

なプロジェクトの存在を知 らせ、それを通じて3・11

ェクトは利用者に他の様々

震災から10年が経過した

の悲劇を理解し長く将来に

ろうか。社会は災害に強く はどんな教訓を学んだのだ 今、日本そして世界の人々 シップを結ぶことができた

(図参照)。JDAプロジ

カイブと貴重なパートナー

伝えることを目的とする。

教司

その後数週間で、2万人

日本災害DIGITALアーカイブの パートナー連携のイメージ 東北大学 みちのく 震録伝 いわて震災津波震災津水 朝日新聞 Asia & Japan Walch API (連携ソフトウエア) \$ 日本災害DIGITALア-

発電所のメルトダウン(炉

に東京電力福島第1原子力

重だったことも判明した。 心溶融)が起き、災害は3

放射能の

危険を

避けるため

世界中の人々が知った。ま 近い人命が失われたことを

究や政策提言をしてきた。 襲われる地域に約70万人が ら、もっと多くの人命が失 HK「震災ビッグデータ」制 話などのデータを使ったN てきた長い歴史がなかった はそこにいた人のうち約97 いたという。単純な計算で 生時点では、その後津波に 作班の調査によると、3月 われていただろう。携帯電 災害を意識し対策を練っ 日午後2時46分の震災発

れでももっとできたはずの 明示され、住民はそれをよ 強い社会だったことだ。そ ない。まず注意しておきた なったのだろうか。残され 災前から各地に災害科学研 く知っている。日本には震 る沿岸地域では避難経路が の日に定めている。学校で 日だ。さらに95年に阪神大 いのは、日本が既に災害に た課題は何だろうか。 ているし、津波の危険のあ 定した避難訓練が実施され は定期的に地震と津波を想 17日を防災とボランティア 震災が起きてからは、 1月 23年に関東大震災が起きた 1日を防災の日と定めた。 ことはあったし、今もある。 3・11の教訓は単純では 日本は1960年に9月

ことで、一種の自然実験が

なプロジェクトが混在した 設したケースもある。様々

出現している。長いスパン

究センターがあり、調査研 2012年の九州北部豪雨 とを紹介した。連携した自 となる関係を築いていたこ リチャード・サミュエルズ 援に派遣し、貴重な知識と 治体は災害直後に職員を支 地の自治体と相互にプラス 被災地域の県や市町村が各 教授は「3・11 震災は日 ログラムの創設者でもある 本を変えたのか」を発表し、 大学(MIT)の日本研究プ ノウハウを持ち帰った。 例えば熊本県庁の職員は 米マサチューセッツ工科

りに戻すアプローチを採用 たケースもある。町を元通 台に移住させる一方で、海 を採用し、住民を安全な高 主導で創造的なアプローチ の景観とアクセスを保全し けではないことだ。自治体 べて国主導で進められたわ 記憶され、次にどこかで災 れた教訓はしっかり学ばれ する前に自宅へ立ち寄ると 震災後の対応が必ずしもす くの命を救えるだろうか。 害が発生したときにより多 だ。こうした経験から得ら が致命的な判断をしたこと いう心情的には理解できる もう一つ注目すべきは、 一段と高い防潮堤を建 果たすと指摘する。同教授 復興促進にも重要な役割を 研究でも強調されている。 ダニエル・アルドリッチ米 うした取り組みの重要性は 合言葉に、仮設住宅にはで な教訓を提供している。 世界各国の政策当局に貴重 東日本大震災を位置づけ、 の対話プロジェクトの中に は世界各地での災害と復興 命・救出活動にも長期的な 社会的なネットワークは救 るよう集会所を配置した。 か、被災者同士が交流でき きるだけ木材を使用したほ ノースイースタン大教授の 社会的な絆を維持するこ

と食の安心、被災地域での 役割などだ。次世代の研究 える影響、記憶維持のため メンタルヘルス、被災地域 ポスト福島の食料安全保障 発されたテーマに変えた。 生が研究対象を3・11に触 者や政策専門家だけではな たちも日本の経験から学ん わせることになりそうだ。 り大災害の教訓に焦点を合 者たちは今後数十年にわた 性、放射能不安が生活に与 い。米国では多くの大学院 に記念碑や記念館が果たす で子供を持つ決心をした女 世界各国の新世代の生徒 震災に反応したのは研究

訓を学ぼうとしたことだ。

でも多くの人が3・11の教

特に興味深いのは、世界

お10年を要するだろう。

力の支援をしてきた。

こうした貴重な努力が払

たかがわかるまでには、な でみてどの方法が賢明だっ

年の福島工業高等専門学校 印象深い報告の一つは、15 の生徒によるものだ。 風化しがちだ。震災の教訓 われても、記憶はどんどん に関して筆者が知った最も

被災することになった。こ 再び住み始め、結局は再び ると、人々は危険な地域に ばらくは記憶が鮮明で、個 の直後に撮影された被災地 人も企業も浸水地域には した津波を取り上げ、災害

• • • るようにし、記録集積の努 自の資料や報告を投稿でき ロジェクトも、利用者が独 る。筆者の携わるJDAプ た充実した東日本大震災ア は極めて賢明な判断だ。 永遠に残し」とある。これ 1として「大震災の記録を が掲げられており、その第 の冒頭に「復興構想7原則 この会議が提出した「復興 後者は議長代理を務めた。 よるものだ。前者は東日本 五百旗頭真氏と御厨貴氏に かで最も重要な決定の一つ 大震災復興構想会議議長、 に閲覧できる50を超えるデ への提言」(11年6月25日) 「ひなぎく」と名付けられ -タベースと連携してい -カイブを発足させ、 自由 また国立国会図書館は、 ともに歴史学者である

だが年月がたち記憶が薄れ や施設を建設していない。 と比較している。被災後し 域の写真を数十年後の写真 の昭和三陸地震の際に発生 この報告では1933年

および16年の熊本地震の際 に、東北支援で得た経験と

た。交通渋滞のほか、避難 調査からは、残る3%が

助からなかった原因につい %が助かったことになる。 ても重要なヒントが得られ

切りに、日本の多くのアー

この10年間で東北大学を皮

本でも進んでいると知り、

ほどなく同様のことが日

残すことが必要と考えた。 憶をデジタル形式で後世に も決めた。震災の記録と記

たたかさ」と「ふれあい」を

知識を仮設住宅の建設に生 かしたと報告している。「あ

文学、地理、物理学と多彩 全米各地の高校や大学から ショップを開催してきた。 室で共有するためのワーク 11の経験を米国の学校の教 ンターの支援を受け、3・ トでは国際交流基金日米セ でいる。JDAプロジェク

くは最近洪水や竜巻に見舞 た。彼らが教える生徒の多 な教科の先生たちが参加し

極めて重要な意義がある。 のように記録と記憶を保存 し後世に伝えていくことは